

■ 本社新社屋紹介

■ 外観と建築概要

去る2000年6月、世田谷区駒沢に本社新社屋が完成いたしました。

開設と同時に創刊となった本誌 Vol.1 でも、その概要を触れさせていただきましたが、このたび移転が全て完了し、業務を開始いたしましたので、写真を交え、改めて紹介させていただきます。

建築概要

敷地面積: 1520.2 m²
建築面積: 1,122.27 m²
延床面積: 4,450.52 m²
構 造: RC造り、地下1階、地上6階



■ モニュメント「絆」

エントランスを入ると、正面の光庭に、斜塔状のモニュメントが目に入ります。

このモニュメントは、トキワ松学園横浜美術短期大学の春山文典教授により制作されたもので、「絆」を表現しています。春山先生は、制作にあたり、次のように言葉を添えています。



エントランス



エントランスより光庭の
モニュメントを臨む



紀元前より螺旋の原理は生活に生かされ、ネジとして、物と物を繋ぐ道具に応用されていた。ルネッサンス期にはレオナルド・ダ・ヴィンチが螺旋構造の推進装置をもつヘリコプターを発明した。また今日、生命の根源である遺伝子=DNAの構造が二重螺旋であることが解明された。

人と人の繋がり、人と社会の繋がり=コミュニティー、また、物理の時代から生物の時代へと移り変わる21世紀を、「絆」として表現した。

■ 環境に配慮した設計

新社屋では屋上にソーラー発電装置を設置しており、10 kWの発電効果があります。これは、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)との共同研究として、省エネルギーと環境負荷削減をはかることはもちろん、都市部における太陽光発電の発電効率のデータを収集しております。半年間の集計の結果、平均で月約5000kWhを発電しており、これは社屋全体の総使用量の約1%にあたります。

その他、環境に配慮した建築設計の特徴として、3階、5階及び6階の屋外には、テラスの一部に常緑の植物を植栽し屋上緑化を行っています。また、外壁には廃棄物を原料にしたエコタイルを使用しているほか、自然光を効率的に取り入れ、センサーにより照度を感知して、室内照明の強さを自動制御することにより、電気使用量を効率化するシステムを導入しています。

なお、環境に配慮した活動としては、静岡の環境創造研究所において ISO14001 を既に取得し、環境マネジメントシステムに基づいた活動を実施してきておりますが、本社新社屋においても、2001年3月認証取得を目標として、環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいます。



自然光の採光設計と屋上緑化(写真左側)

■ 分析の自動化と省力化

従来、東京エリアにおける環境分析は目黒区で行っていましたが、新社屋完成とともに、環境分析機能も「環境分析センター」として移転いたしました。

環境分析センターは、環境ホルモンをはじめとした環境化学分析の設備の拡充とできる限りの自動化につとめ、分析項目による分析室の隔離レベルの強化等、業務の精度向上及び効率化を図っています。

さらに、分析室への空気を取り入れは、活性炭フィルターを通じた清浄な空気が流入するように設計されています。



環境分析センター(分析設備設置前の状況)

■ 環境教育の場として

本社新社屋には、環境教育を主目的とした GE カレッジ(地球環境カレッジ)ホールを併設いたしました。このホールは、200名の収容能力を持ち、210インチのスクリーンを備えており、会議や講演会など多目的に利用することができます。

GE カレッジの活動として、環境の有識者による社内セミナーの開催や、地域住民参加型の環境教育を実施してきております。GE カレッジホールの完成に伴い、本ホールを地域住民等の方々などを対象とした環境情報の提供及び知識の普及のために公開することを考えております。



GE カレッジホール